

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

大学院保健学研究科

部局長名：

廣畑 聡

目標・取組	目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>①教務委員会を中心に、「岡山大学における教育の内部質保証に関する方針・手順」に基づく内部質保証サイクルを恒常化させるための計画を立案し実施する。</p> <p>②Target2025に準拠した学位プログラムのための新しい3ポリシーを検討する。</p> <p>③「インターンシップなどに関する科目」の具体的な実施方法・評価方法を検討する。</p> <p>④今年度から学位プログラムによる学修者主体の教育を実施する。</p> <p>⑤ホームページを充実させて研究内容を広く周知して、GDPの卒業生等を大学院生として獲得するなど大学院を充足させる。</p>	<p>①教務委員会と教授会において内部質保証のシステムを確立し、修了生アンケートなどの手順を定めて実施した。アンケート結果は教員で情報共有した。</p> <p>②R4年度より開始した学位プログラムに合致した3ポリシー案を作成し、R5年3月末に大学ホームページで公開した。</p> <p>③インターンシップなどに関する科目については、病院勤務など職種の特性も踏まえて対応できるようにしている。</p> <p>④学位プログラムを開始した。大学院生は「リーダーシップとSDGs」など全学的な新たな開講科目を学んだ。</p> <p>⑤保健学研究科のホームページを全面改訂し、情報をリアルタイムにこまかく発信するよう努め、GDP出身の大学院生が2名次年度より入学予定である。さらなる留学生獲得を目指して中国語ホームページも作成中である。</p>
②研究領域	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>①研究開発・推進委員会において、IRを活用した研究力の評価と分析をおこない、外部資金獲得へ向けての戦略をたてて、実施する。科研費の獲得数の増加のため、予備添削を組織的に行う。科研費申請率を高めるように働きかける。</p> <p>②学内外の共同研究を促進するため、ブレインストーミングなどのシンポジウムに積極的に参加する。Top10%論文、Q1ジャーナル論文、国際共著論文の重要性について構成員に周知する。国内外からの客員研究員などの受入を実施して、海外研究機関との連携を検討し、国際共同研究を展開するための基盤を構築する。</p> <p>③部局のホームページにOUフェローシップなどの紹介ページへのリンクをはることで、学生の認知度を高め、大学院進学への意欲向上を図る</p> <p>④若手教員や大学院生の研究をサポートする保健学研究科独自の若手支援パッケージを計画し、若手教員や大学院生の研究を推進する。</p>	<p>①病院研究推進課から、各年度の科研費申請・採択結果の情報を得て、各分野ごとの採択状況を踏まえ、重点的に支援すべき領域を定めて、実績のある研究者との共同申請による新たな研究課題の提案や申請書の添削などをおこなった。</p> <p>②ブレインストーミングに参加するとともに、教員連絡会などでTop10%論文、Q1ジャーナル論文、国際共著論文の重要性について部局連絡会の資料を示して、教員の意識改革を促した。また、タイ国シーマハサラカム看護大学やインドネシア・ハサヌディン大学との国際交流を実施、米国ウエイン州立大学の現地視察など新たな連携を展開して、国際共同研究のための基盤を構築した。</p> <p>③研究科のホームページを全面改訂し、OUフェローシップを紹介するリンクを貼るなど、大学院博士後期課程への進学を促す仕組みを実施した。またpost O-NECUSプログラムも積極的に推進した結果、最終的に定員充足できた。</p> <p>④保健学研究科独自の若手支援パッケージを立案し、研究担当理事戦略経費に採択され、若手PIの環境整備および国際研究推進に向けての研究科による支援をおこなった。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>①デジタル田園健康特区事業など、地域と医療・福祉に関わる事業のニーズを調査して、第4期期間に地域と共創する事業を開始するための基盤を研究科として構築する。</p> <p>②コロナ感染拡大時には岡山市保健所のバックアップを行うことができるような体制を構築して備えておく。保健所とのネットワークを構築して次世代の人材育成への基盤構築をおこなう。</p> <p>③地域住民を対象とした公開講座を新たに実施するとともに医療従事者のためのリカレント教育プログラムをオンライン学習等を活用して実施する</p>	<p>①デジタル田園健康特区事業における、産後ケア事業など研究科として取り組むとともに、岡山大学病院でスタートしているプログラムにあわせて、今後ヘルスシステム統合科学研究科も巻き込んだオール岡大体制で関わっていくための基盤を構築した。</p> <p>②コロナ感染拡大においては保健所への支援体制を継続しつつ、保健師教育など岡山県内の保健所とのネットワークを活用して、保健師の育成を通じて、次世代の人材育成への基盤とした。</p> <p>③育児に関する母親の支援の目的で、地域企業と連携して「子育てあるある川柳大会」を開催した。 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/event/event_id2940.html また、「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムなどのリカレント教育プログラムをオンラインで6回実施した。</p>
④管理運営領域	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>①教員の勤務状況を調査確認し、会議をオンライン化するなど研究時間確保に必要な取組を実施する。</p> <p>②保健学科棟改修計画においてイノベーションコモンズを新たに設置するための検討をおこなう。</p> <p>③さらに、LGBTQを含む多様な利用者へ配慮した新たな保健学科棟ではDX学習にも対応したWifi環境の整備を計画する。</p> <p>④研究不正に対する教員への意識啓発をおこなうとともにE-learning受講率を高める</p>	<p>①教授会や運営会議をはじめ、国際WGなど各委員会をオンライン開催として、研究時間確保のため会議を短時間で終了させた結果、長時間労働(100時間超)の教員がゼロになった。</p> <p>②第4期中期計画にある、イノベーションコモンズを鹿田地区に新たに設置するため、改修WGを開いて、研究科として地域と共創するための構想を作り上げた。</p> <p>③改修前であっても学生の学ぶ場所や時間を確保するために、講義室やリフレッシュコーナーなどを自習スペースとして学生に開放した。さらに改修計画では、学生が主体的に学ぶことのできるスペースを確保するとともに、LGBTQを含む多様な利用者へ配慮した配置とした。</p> <p>④研究倫理や情報セキュリティに関する各教員のe-learning受講を促した。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。